

審査の結果の要旨

氏名 木場 裕紀

米国高等教育機関では、19世紀後半から女性の身体教育活動としてダンスが取り入れられ、20世紀前半には多くの機関でダンス・プログラムが提供されるようになった。さらに1960年代以降には独立したダンス・デパートメントや芸術系デパートメントが設置され、学問領域としてのダンスが確立されたと考えられている。先行研究では、こうした変化の要因・背景が主として連邦政府の教育・芸術政策や全米レベルの専門家団体の動きなどのマクロな視点から説明されている。それに対し、本研究は高等教育機関内部のダンスを専門とする教員集団に注目し、ダンスを身体教育から芸術の一分野へと位置づけ直すことをめぐる葛藤や機関内他組織との相克などを明らかにして、ダンス・プログラムがダンス・デパートメントへと組織化された要因を精緻に解明することを目的としている。

本論文は、第1章及び第2章において、主題である米国高等教育機関におけるダンスの歴史と現状を概観して問題の所在について述べ、関連する先行研究の検討に基づいて本研究の課題と分析の視点を示した後、第3章から第6章では約100年間にわたるウィスコンシン大学マディソン校の事例分析を行っている。同大学では1926年に世界初となるダンス専攻が設置されたが、独立したダンス・デパートメントが開設されたのは2010年と他大学より遅く、本研究主題の解明にふさわしい事例である。第3章では、ダンス専攻の設置に中心的な役割を果たしたマーガレット・ドゥブラーのダンス教育の理念と実践を詳細に検討するとともに、ダンス専攻をめぐる大学内部の折衝過程やカリキュラムの詳細を明らかにしている。続く第4章では、第二次世界大戦後のアメリカ社会における上演芸術としてのダンスの興隆と連邦政府の文化政策を背景として、高等教育機関では芸術系のデパートメントにダンスを位置づけなおしたり、独立したダンス・デパートメントを設置したりする動きが進み、ウィスコンシン大学マディソン校でもデパートメントとしての独立が提案されたものの、結局は断念された経緯を大学内部の交渉記録を基に検討し、原因を分析している。第5章では、1972年の教育修正法第9篇（タイトルIX）の施行に伴い、それまで別組織であった女性身体教育デパートメントと男性身体教育デパートメントが統合され、新たに身体教育・ダンス・デパートメントが設置されたが、その過程におけるダンスのアイデンティティをめぐる葛藤や駆け引きが検討される。第6章では、1980年代以降、ダンス・デパートメントの設立を目指す動きが再燃し、2010年によりやく実現に至った過程を分析している。分析からは、ダンスの、身体教育ではなく芸術としてのアイデンティティを確立するとともに、独立した組織としての運営を可能にするだけのテニュア教員が確保されたことで大学組織内部に「クリティカル・マス」が形成されたことが、ダンス・デパートメント設立の要因であったことが示された。

本研究は、ウィスコンシン大学アーカイブズや州歴史図書館で収集した史資料及び関係者のインタビューを主たるデータとして、100有余年のスパンにわたる事例研究を行うことで、米国高等教育機関におけるダンスの位置づけの歴史的変容に関する研究の進展に寄与する新たな知見を提示している。よって、本論文は、博士（教育学）の学位を授与するに相応しいものと判断された。